

◆◆◆ 資 料 ◆◆◆

資料編目次

- 資料1** これまでの経過
- 資料2** 北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会 報告書
「北村山地区の高校教育の在り方について」(概要)
- 資料3** 山形県産業教育審議会 答申
「時代の進展や産業界の動向等に対応した本県産業教育の在り方について」
(概要)
- 資料4** 山形県中高一貫教育校設置構想 (概要)
- 資料5** 山形県中高一貫教育校設置計画 (内陸地区) 概要

これまでの経過

年度	経過
平成16年度	○ 3月 「県立高校教育改革実施計画」を策定 ・北村山地区の高校の再編を平成24年度～26年度の検討課題とする
平成17年度	○ 北村山高校（商業科）を1学級減
平成18年度	○ 東根工業高校（工業科）を1学級減 ○ 1月「北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会」設置 ○ 2月「山形県の中高一貫教育の在り方に関する検討委員会」設置
平成19年度	○ 北村山高校（普通科・商業科）を総合学科に改編 ○ 1月「山形県の中高一貫教育の在り方に関する検討委員会」報告 ・併設型中高一貫教育校及び中等教育学校については、積極的に導入することが望ましい ○ 2月「北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会」報告 ・3校の配置が望ましいが、2校の配置も考えられる
平成20年度	○ 7月「山形県産業教育審議会」設置 ・「時代の進展や産業界の動向等に対応した本県産業教育の在り方について」諮問
平成21年度	○ 6月「山形県産業教育審議会」答申 ・本県産業教育の改善・充実の方向性と具体的方策 ・各専門の教育内容の改善・充実と学科の在り方 ○ 6月「山形県中高一貫教育校設置構想」策定 ・併設型中高一貫教育校の設置を基本とする ・当面、内陸地区と庄内地区にモデル校を早期に設置する ○ 12月「山形県中高一貫教育校設置計画（内陸地区）」策定

北村山地区の高校教育の在り方について 報告書(概要)

平成20年2月15日
北村山地区の県立高校の
再編整備に係る検討委員会

現状と課題

村山農業高校
農業科 3学級

楯岡高校
普通科 5学級

東根工業高校
工業科 3学級
家庭科 1学級

北村山高校
総合学科 5学級

中学校卒業(予定)者数の減少 1,085人(平19)→860人(平26)

高い割合の他地区への進学 5割以上が東南村山地区の公私立高校などへ

17学級(平19)

↓
14学級程度(平26)

社会の変化と地域の
活性化への対応

生徒の多様化と進路
意識の変化への対応

少子化と魅力ある
学校づくりへの対応

望まれる人材

知徳体のバランスの
とれた人材

社会や時代の変化に柔軟かつ
的確に対応し心豊かに生きる

地域の発展を
担う人材

グローバルな視点を持ち、地域の
産業や社会の発展に貢献する

高い志を持って自己
実現を図る人材

高い目標と理想を持って、自分
の人生を切り拓いていく

必要な教育内容や活動

- ・多様な進学希望を実現させる教育
 - ・地域産業を支える教育
 - ・自己実現のためのキャリア教育
- ・部活動の充実
 - ・地域との連携・交流

ある程度の学校規模

- ・多様な教育課程の編成
- ・集団で切磋琢磨する環境
- ・部活動や学校行事の充実

通学の便や
地域の実情への配慮

望ましい高校の配置

3校の配置(3校への再編)

(2校の配置も考えられる)

(例)

A校
地域の産業と関連した
人材の育成を担う学校

B校
多様な学びを通して進
路実現を図る学校

C校
進学指導を充実させた
学校

「時代の進展や産業界の動向等に対応した本県産業教育の在り方について」
～ 山形の未来を紡ぐ「夢」と「人」の「ネットワーク」づくり～

平成 21 年 6 月 30 日
山形県産業教育審議会 答申

1 専門高校はどのような人材育成をめざすべきか

【本県産業社会の現状と今後の動向】

- 本県の産業構造
県内総生産額：約 4 兆 1 千億円 (平成 18 年) 第
・構成比 1 次：3.1% 2 次：29.5% 3 次：70.4%
* 全国に比べ、1 次、2 次の割合が高い
- 地域経済を取り巻く環境の変化
・少子高齢化、情報化、経済のグローバル化の進展
・環境やエネルギー、食、健康、福祉への関心の高まり
・産業の複合化による新たな付加価値商品づくり
・「物質的な豊かさ」から「心の豊かさ」への生活スタイルの変化
- 本県の豊かな資源を活かした次代を拓く人材育成の推進

2 地域産業界や上級学校との連携・接続をどのように進めるか

【本県高等学校の現状と課題】

- 産業社会の変化への対応
・変化へ適切に対応した産業教育の検討
・専門高校生に求める資質・能力の変化
・地域産業に、手育成としての期待
- 生徒の多様化への対応
・中学卒業者の 99.0%が高校進学
・学びの目的が希薄
- 学校から社会への移行に係る課題
・産業が求める高卒求人雇用情勢の変化
・早期離職率が全国平均に近づく
・中途採用や派遣、臨時雇用等雇用形態の多様化

3 専門学科の配置はどうあるべきか

【県の施策等】

- 第 5 次山形県教育振興計画(平成 16 年 6 月)
「いのち」そして「まなび」のかかわり
○ やまがた教育コミュニケーション改訂計画
(平成 21 年 3 月)
- 【国の動向】
○ 教育基本法の改正 (平成 18 年 12 月)
○ 教育振興基本計画 (平成 20 年 7 月)
○ 高校学習指導要領の告示 (平成 21 年 3 月)
○ 中央教育審議会諮問 (平成 20 年 12 月)
「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」

本県産業教育の改善・充実の方向性と具体的方策

1 産業社会の変化に主体的に対応できる資質・能力の育成

- ① 高い志と挑戦する心の育成
○ 学び楽しさ・知る喜びを実感できるキャリア教育の推進
・社会貢献体験や自己有用感を育む指導の推進
- ② 主体的に学ぶ意欲と創造力の育成
○ 基礎的な知識・技術及び技能の定着
・専門を支える普通科目の「基礎学力」の充実
○ 専門性の向上
・企業等における実習を通じた実践力の育成
- ③ 人間性豊かな職業人の育成
○ コミュニケーション力の育成 ○ 規範意識・職業倫理の育成
○ 社会への適応力の育成

2 地域産業の発展に資する教育の推進

- ① 地域産業の活性化を図る担い手・リーダーの育成
・郷土やまがたの理解と地域人材育成ネットワークの構築
- ② 世界を視野に地域拠点で活躍する人材の育成
・国際理解教育の推進、起業家精神の醸成

3 産業教育充実の基盤となる学習環境の整備

- ① 産業界や上級学校等と連携・接続した教育システムの構築
※ 多様なキャリアパスによるキャリア形成
【産業界との連携】
○ 実践的な知識・技術及び技能を身に付けた人材の育成
・産業界と連携し、専門の実践力を高める教育プログラムの開発
【上級学校との連携・接続(高大連携の推進)】
○ より高度な専門知識・技術を身に付けた人材の育成
・ 5 年一貫教育の一層の充実(工業・看護科)
・ 県立大学校とのカリキュラム連携 (農業・工業・情報科)
【小・中学校との連携】
・ 「出前授業」等による児童生徒への産業教育理解の促進
・ 専門高校が持つ施設設備の開放による産業教育理解の促進
- ② キャリア教育における職業教育の充実
○ 職業教育に関連させた指導の充実を図ったキャリア教育の実践
- ③ 実験・実習設備の充実
○ 基礎となる技術・技能の習得に必要な施設・設備の整備
- ④ 教育の情報化を推進する環境整備

4 専門教育の指導力向上を図る教員研修の充実

- ① 実践的な指導力向上を図る研修の充実
○ 教員の企業等での研修
○ 産業界と教員の交流の場の設定
- ② 国際貢献活動の推進
○ 専門性を活かした国際貢献活動を推進し、国際的な視野をを持った人材の育成

5 少子化に対応した専門高校(学科)の適正配置

- 基本方針
変動する労働市場や多様化する産業社会、時代と地域のニーズを踏まえた「単科型専門高校」「複合型専門高校」「総合学科高校」の適切な配置
【農業】 複合型専門高校の配置を軸に検討
【工業】 単科型専門高校と複合型専門高校の配置を検討
【商業】 単科型専門高校、複合型専門高校、総合学科高校の配置を検討 など
○ 高校再編整備
専門学科等の改善・充実策(本審議会の検討)を「県立高校教育改革実施計画(改訂)」に反映

各専門学科の改善・充実策

No.1

	農 業	工 業	商 業	水 産
現 状	<p>□ (県立) 6校 II 学科 14 学級 食料生産、農産加工、園芸加工、環境カイト、生物生産、生物環境、園芸活用、環境緑地、農業、園芸科学</p> <p>○ 進 学：・大学等 9.2%・専修学校等 30.0%</p> <p>○ 就 職：58.9%</p> <p>○ 農業の総合産業化に対応できる人材の育成</p> <p>○ 本県の農業及び食産業を牽引する人材の育成</p>	<p>□ (県立) 8校 22 学科 36 学級 (私立) 3 校 機械、機械加工、電子機械、電気、電気の加工、情報技術、土木、建築加工、建築加工、等</p> <p>○ 進 学：・大学等 18.8%・専修学校等 21.8%</p> <p>○ 就 職：58.5%</p> <p>○ 実践的な技術・技能を有した人材の育成</p> <p>○ 創造開発型ものづくり人材の育成</p> <p>○ 国際社会で活躍する人材の育成</p>	<p>□ (公立) 7校 8 学科 18 学級 (私立) 3 校 総合ビジネス、国際ビジネス、情報ビジネス、情報経営、国際情報、情報会計、経済、国際コミュニケーション</p> <p>○ 進 学：・大学等 38.9%・専修学校等 26.8%</p> <p>○ 就 職：32.2%</p> <p>○ 将来のビジネスリーダーとなる人材の育成</p> <p>○ 起業マインドと職務的経営感覚を持った人材の育成</p> <p>○ 国際的視野に立って地域経済を活性化できる人材の育成</p>	<p>□ (県立) 1校 2 学科 2 学級 海洋技術、海洋環境</p> <p>○ 進 学：・大学等 4.3%・専修学校等 26.1%</p> <p>○ 就 職：65.2%</p> <p>○ 海を活躍の場にする人材の育成</p> <p>○ 海の恵みを創造できる人材の育成</p>
め ざ す 人 材 の 育 成	<p>○ 基礎・基本の明確化と確かな習得 ・各科目と実習内容を明示したシラバスの作成</p> <p>○ プロジェクト学習等の充実 ・農業クラブ活動を通じたプロジェクト学習 ・各種競技会への積極的な参加</p> <p>○ 農業の総合産業化に対応した教育の推進 ・地場特産の農産物を活かした商品開発から販売まで、総合的な学習を通し、農業の総合産業化に対応した実践的な知識・技術の習得</p> <p>○ 地球環境保全に関する実践的な学習の推進</p>	<p>○ 基礎・基本の明確化と確かな習得 ・各科目と実習内容を明示したシラバスの作成 ・技能の達成目標を明確にした技術ロードマップの作成</p> <p>○ 実践的な技術・技能の習得 ・生徒の企業における実習 ・長期のインターンシップ ・外部講師の招聘による技術指導 ・高校生ものづくりコンテストの強化</p> <p>○ 高度な資格・検定取得の推進 ○ 地域やユーザーの視点に立ったものづくりの推進 ・デザイン教育 (発想から製品化まで) の充実 ・知的財産権に係る教育の充実</p>	<p>○ 「コトづくり」教育の推進 ・地域経済活性化のためのアイデアの提案 ・地産品を使った新商品や観光プランの提唱 ・まちおこしによる地域経済活性化の提案</p> <p>○ 基本的な生活習慣の確立とビジネスマナーの体得</p> <p>○ 進路実現に向けた資格取得</p> <p>○ 新たな体験学習の推進 ・経営側に立ったインターンシップ等</p> <p>○ 国際化に対応した教育の推進</p>	<p>○ 実践的な技術・技能の習得 ・船舶技術の習得 ・海産物に付加価値をつける技能の習得</p> <p>○ 山形県の漁法の習得 (イカ釣り・延縄・流し網・刺し網・籠・一本釣り)</p>
具 体 的 な 方 策	<p>○ 県立農業大学校との連携による担い手の育成 ・農業大学校への接続による実践的技術の習得</p> <p>○ 他学科との連携による教育活動の推進 ・専門を活かし、幅広い視点から新たな課題に対応できる人材の育成</p> <p>○ 地域との連携による教育の推進 ・中長期インターンシップ ・地域の指導農業者、食や農の専門家との連携</p> <p>○ 農業の担い手育成を図る仕組みづくり ・卒業後の農業科目の学び直しができる仕組みの検討</p>	<p>○ 他校・他学科との連携の推進 ・ビジネスを創造する商品開発を実践するため、他学科と連携した教育活動の推進</p> <p>○ 上級学校との連携の推進 ・商業系大学との遠隔授業や継続教育型専門学習の検討</p> <p>○ 地域や企業と連携した実践的学習システムの確立 ・外部講師の活用 ・産学官によるリアルタイムな意見交換の場の設定</p>	<p>○ 上級学校との連携 ・上級学校との接続による船舶技術の習得</p> <p>○ 他学科との連携による教育活動の推進 ・専門を活かし、幅広い視点から新たな課題に対応できる人材の育成</p> <p>○ 地域と密着した水産教育の推進 ・水産試験所等との海環境保全に関する共同研究 ・小中学生への海洋体験学習の実施</p>	<p>○ 実践力を高める教員研修の充実 ・水産に関する実践的指導力の向上を図るため、地元関係施設等における研修の充実</p> <p>○ 配置の考え方 ・県内唯一の水産科として、現状を維持することが望ましい。他学科との併置も検討。</p>
資 質 向 上	<p>○ 実践力を高める教員研修の充実 ・農業に関する実践的指導力の向上を図るため、農家や関係施設、大学等における研修の充実</p> <p>○ 配置の考え方 ・複合型専門高校の配置を軸に検討する。</p>	<p>○ 実践力を高める教員研修の充実 ・商業に関する実践的指導力の向上を図るため、企業や関係施設、大学等における研修の充実</p> <p>○ 配置の考え方 ・単科型専門高校、複合型専門高校、総合学科高校の配置を検討する。</p>	<p>○ 実践力を高める教員研修の充実 ・商業に関する実践的指導力の向上を図るため、企業や関係施設、大学等における研修の充実</p> <p>○ 配置の考え方 ・単科型専門高校、複合型専門高校、総合学科高校の配置を検討する。</p>	<p>○ 実践力を高める教員研修の充実 ・水産に関する実践的指導力の向上を図るため、地元関係施設等における研修の充実</p> <p>○ 配置の考え方 ・県内唯一の水産科として、現状を維持することが望ましい。他学科との併置も検討。</p>
整 備 の 在 り 方	<p>○ 配置の考え方 ・複合型専門高校の配置を軸に検討する。</p>	<p>○ 配置の考え方 ・単科型専門高校、複合型専門高校、総合学科高校の配置を検討する。</p>	<p>○ 配置の考え方 ・単科型専門高校、複合型専門高校、総合学科高校の配置を検討する。</p>	<p>○ 配置の考え方 ・県内唯一の水産科として、現状を維持することが望ましい。他学科との併置も検討。</p>

各専門学科の改善・充実策

No 2

	家庭	看護	情報	福祉
現状	<input type="checkbox"/> (県立) 2校 2学科 2学級 (私立) 3校 ・食物 ・生活クリエイト <input type="checkbox"/> 進学：・大学等 29.9% ・専修学校等 18.2% <input type="checkbox"/> 就職：51.9%	<input type="checkbox"/> (県立) 1校 1学科 1学級 ・看護 <input type="checkbox"/> 進学：・専攻科 100% <input type="checkbox"/> 就職：なし	平成24年度開校予定 酒田新高校 (仮称) 1学級 ・情報 (仮称)	<input type="checkbox"/> (県立) 1校 1学科 1学級 ・福祉 (但し、家庭に関する学科として設置) <input type="checkbox"/> 進学：・大学等 20.0% ・専修学校等 42.5% <input type="checkbox"/> 就職：37.5%
めざす人材の育成	<input type="checkbox"/> 生活関連サービスを支える人材の育成	<input type="checkbox"/> 地域の保健・医療を支える人材の育成	<input type="checkbox"/> ICTを活用し情報化を推進することができる人材の育成	<input type="checkbox"/> 地域の介護福祉を支える人材の育成
具体的な方策	基礎基本	<input type="checkbox"/> 基礎・基本の明確化と確かな習得 ・衣食住、ヒューマンサービスに関する学習内容と達成目標を明示したシラバスの作成	<input type="checkbox"/> 基礎・基本の明確化と確かな習得 ・各科目の学習内容と達成目標を明示したシラバスの作成	<input type="checkbox"/> 基礎・基本の明確化と確かな習得 ・各科目の学習内容と達成目標を明示したシラバスの作成
	実践力	<input type="checkbox"/> 実践的な知識・技術の習得 ・全国家庭科技術検定受検、衣食住に関する各種コンクールやコンテストへの積極的参加 <input type="checkbox"/> 課題解決学習の重視 ・ホームプロジェクト・学校家庭クラブ活動を通して、課題解決力を重視して実践力及び企画マネジメント能力を育成	<input type="checkbox"/> 5年一貫教育による看護教育の充実 ・看護実践の場を通して知識・技術の習得と統合化 <input type="checkbox"/> 看護サービスの充実 ・他職種との連携を図り、チーム医療に関する実践的な教育の充実を図る。	<input type="checkbox"/> ICTを駆使した課題解決能力の育成 ・高度な技術の習得と、課題の発見と解決、創造力や洞察力を育成する教育の充実
	連携①	<input type="checkbox"/> 他校や他学科との連携による教育活動の推進 ・福祉、看護など他学科と連携した活動を通して、家庭に関する専門的知識・技術の深化	<input type="checkbox"/> 大学等と連携した看護教育の充実 ・看護サービスの充実を図るため、社会資源の活用や他職種との連携を図り、チーム医療に関わる教育内容の充実	<input type="checkbox"/> 他学科と連携した教育の推進 ・商業、工業など他の学科と連携した活動を通して、情報に関する専門的知識・技術の深化 <input type="checkbox"/> ICTを活用した教育の推進 ・eラーニング等を活用し、大学と連携した遠隔講義の実施
	連携②	<input type="checkbox"/> 地域や関係機関との連携による教育の推進 ・衣食住、ヒューマンサービスに係る企業実習や、地域との行政サービス機関などと積極的に連携し、地域に貢献する人材の育成	<input type="checkbox"/> 関係機関と連携した看護教育の充実 ・医療や保健、福祉に係る施設や関係機関と連携し、専門的な教育内容の充実	<input type="checkbox"/> 地域や関係機関との連携による教育の推進 ・介護に係る実習や、地域との行政サービス機関などと積極的に連携し、職業意識や専門的職業人に必要なとされる資質・能力の向上
	資質向上	<input type="checkbox"/> 実践力を高める教員研修の充実 ・家庭に関する実践的指導力の向上を図るため関係施設等における研修の充実	<input type="checkbox"/> 実践力を高める教員研修の充実 ・看護に関する実践的指導力の向上を図るため関係施設等における研修	<input type="checkbox"/> 実践力を高める教員研修の充実 ・情報に関する実践的指導力の向上を図るため企業、大学等における研修の充実
整備の在り方	<input type="checkbox"/> 配置の考え方 ・複合型専門高校と総合学科高校の配置を検討する。	<input type="checkbox"/> 配置の考え方 ・県内唯一の看護科として現状を維持するのが望ましい。	<input type="checkbox"/> 配置の考え方 ・複合型専門高校の配置を検討する。	<input type="checkbox"/> 配置の考え方 ・複合型専門高校と総合学科高校の配置を検討する。

介護福祉士法改正への対応

- ・専門科目の履修単位の増加 (34→52 単位)
- ・指導する教員要件の改正
- ・実習時間の増加 (140 時間→445 時間) 等

→ 以上の要件を満たす教育課程の検討

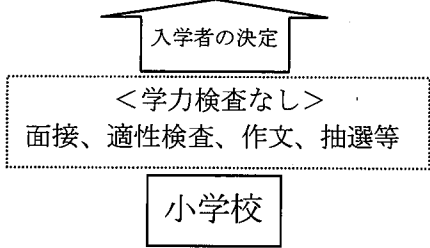
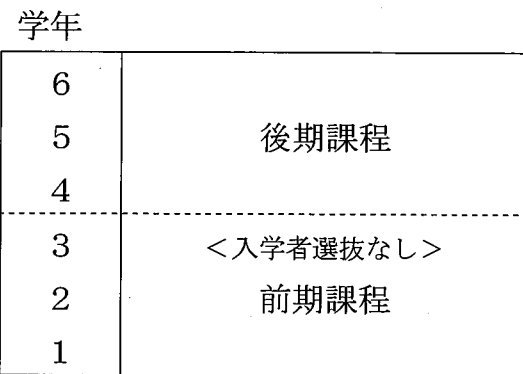
山形県中高一貫教育校設置構想 概要

平成 21 年 6 月
山形県教育委員会

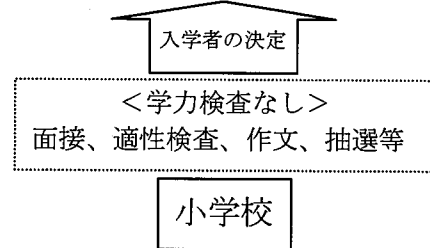
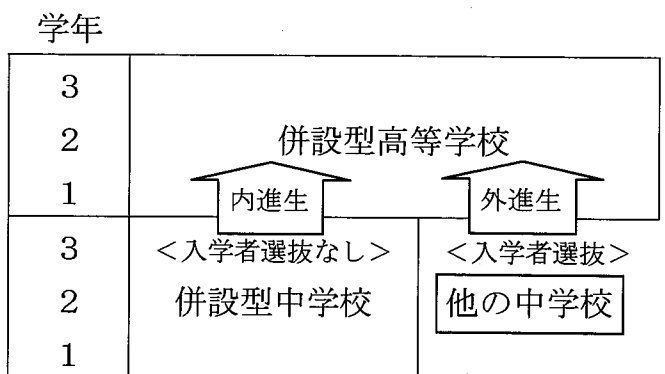
1 中高一貫教育の概要

- 中学校と高等学校を 6 年間で継続的に教育する制度である。
- 中等教育学校、併設型、連携型の設置形態がある。(連携型は金山、小国地区で実践)

中等教育学校



併設型



- 一つの学校として、6 年間一体的に中高一貫教育を行うもの。高等学校入学者選抜の影響を受けず、生徒集団が同一メンバーに固定される。
- 6 年間の計画的・継続的な教育活動を最も効果的に展開できる。

- 中学校 3 年、高等学校 3 年であり、設置者が同じ。併設型中学校からは、入学者選抜なしで、併設型高等学校に入学が可能である。
- 中等教育学校に準じた教育効果が期待できることに加え、固定化しやすい人間関係を緩和することができるなどの利点もある。

特色・意義

- ① 高等学校入学者選抜なし
- ② 6 年間の計画的・継続的な教育活動 (知識の活用や探究の時間が充実)
- ③ 小学校卒業段階における進路選択肢の拡大
- ④ 幅広い年齢集団による活動

2 新たな中高一貫教育校の設置構想

□ 設置形態

- 併設型中高一貫教育校の設置を基本とする

□ 設置場所及び通学区域（学区）

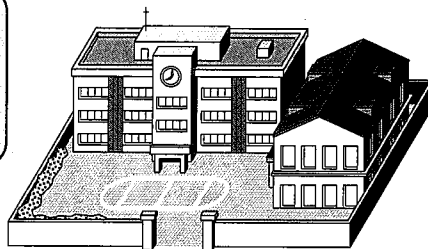
- 当面、内陸地区と庄内地区にモデル校を設置し、実践を検証した上で、将来的には、県内4学区への設置を検討する
- 交通の利便性がよく、既存の中学校の生徒数等への影響が極力小さい場所に設置する
- 学区は県内一円とする

□ 設置学科

- 高校卒業後の進路選択の幅が広い普通科を基本とする

目指す学校像

- 体験の積み重ね等を通して、個性や創造性を伸ばすことができる学校



- 子どもたちが描く将来の希望と6年間の学びとが直結する学校

- 専門性の深化・高度化を図る探究的な学習活動を実現する学校

**個性を伸ばす6年
能力を伸ばす6年**

- 教師が子どもとじっくり向き合い、きめ細かい教育を実践する学校

育てる生徒像

- 社会に貢献するという強い意思を持って、自分の進路を選択し、独り立ちできる人間
- 自分の選択した分野でリーダーシップを発揮し、温かい心を持って未来の山形を切り拓く人間

教育方針

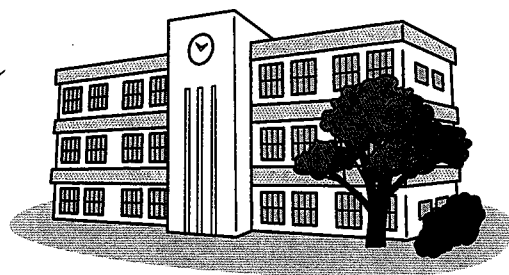
- 豊かな体験を通して、3・3制(従来の中学校・高等学校)で伸ばしきれない生徒の個性・能力を伸長する
- 「知る」楽しさ、「わかる」喜び、「知識を活用する」面白さを伝える
- なりたい自分を実現するために、自分の未来を切り拓く「学力」をつける

山形県中高一貫教育校設置計画（内陸地区）概要

従来の中学校・高等学校の制度に加えて、6年間の一貫した教育環境の下で学ぶ機会を選択できるようにすることにより、中等教育へのニーズの多様化に対応し、生徒一人ひとりの個性をより重視した教育の実現を目指すものとして、県内初となる併設型の中高一貫教育校を設置する。

併設型中高一貫教育校の特徴

- ・ 併設型中学校からの高等学校入学者選抜なし
- ・ 6年間の計画的・継続的な教育活動
- ・ 小学校卒業段階における進路選択肢の拡大
- ・ 幅広い年齢集団による活動



東根市への設置

山形県中高一貫教育校設置構想（平成21年6月）、及び県立高校教育改革実施計画（平成17年3月）に示されている次の3つの視点より、内陸地区の設置場所を東根市とする。

- ・ 将来にわたり生徒を確保でき、広域的に入学者を確保できる場所
- ・ 他地区に多くの生徒が流出しており、高い設置効果が期待できる場所
- ・ 新たに中学校を選択できるようになる場所

東根中高一貫校（仮称）の概要

設置場所 東根市
 （東根工業高校敷地）

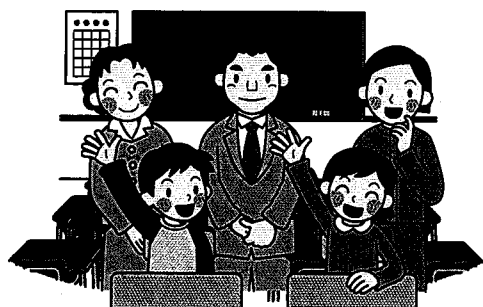
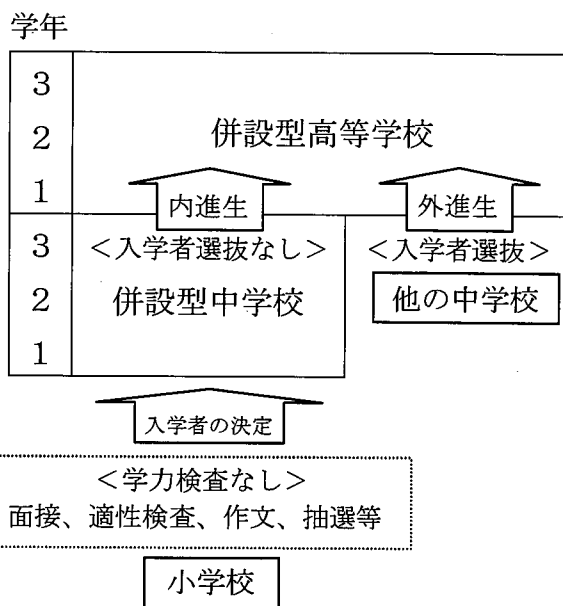
設置形態 併設型

学科(高校) 普通科 （進学型単位制）

入学定員 中学校 （2～3学級）
 高等学校 200名（5学級）

通学区域 県内一円

〔併設型中高一貫教育校のしくみ〕



学校の特徴

6年間の継続的な教育活動を展開する県内初の併設型中高一貫教育校

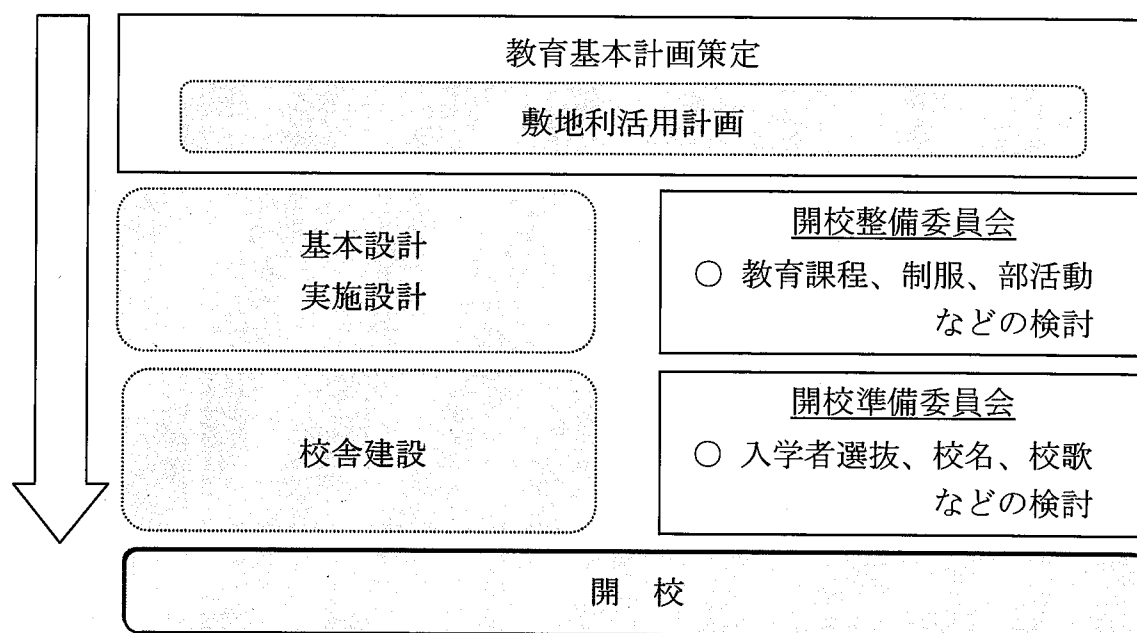
子どもたちが描く将来の希望と6年間の学びとが直結する学校

専門性の深化・高度化を図る探究的な学習活動を実現する学校

豊かな体験活動等を通して、個性や創造性を伸ばすことができる学校

今後のスケジュール

平成22年4月



<これまでの経過>

- 平成11年4月 中高一貫教育校制度化
- 平成13年4月 金山地区・小国地区に連携型中高一貫教育校を導入
- 平成17年3月 県立高校教育改革実施計画
- 平成20年1月 山形県の中高一貫教育の在り方「報告書」
- 平成21年4月 山形県中高一貫教育校設置構想(案)に係るパブリック・コメント
- 6月 山形県中高一貫教育校設置構想
- 7月 山形県中高一貫教育校設置構想に係る地域説明会(県内4地区)
- 12月 中高一貫教育校設置計画(内陸地区)

<お問い合わせ>

山形県教育庁高校教育課高校改革推進室

〒 990-8570 山形市松波二丁目 8-1

TEL 023 (630) 3067 FAX 023 (630) 2774

※ 北村地区の県立高校の再編に関する情報については、県ホームページでもご覧になれます。

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/kyoiku/700013>